東日本大震災　復興支援活動について

東日本大震災から、はや6ヶ月が経ちました。立教大学校友会では、学院・大学幹部と共に被災地を訪問するなど、被災地の情報収集に努めて参りました。その結果、校友の方2名が今回の震災でお亡くなりになっていることがわかりました。また、福島第一原子力発電所の事故を受けて、避難所生活を余儀なくされている校友の方もいらっしゃいました。立教大学校友会は、義援金の支援だけではなく今後も様々な面から支援を行ってまいります。今年は、ホームカミングデーで東日本大震災復興支援企画「地域立教会のひろば」も行い、被災した本学学生の奨学支援のため、売上金を「立教未来計画」募金に寄付いたします。

最後になりましたが、この度の震災でお亡くなりになられた皆様に、心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

被災学生への奨学支援にご協力をお願いします

「立教未来計画」募金では被災した本学学生の奨学支援を引き続き行っております。

被災した本学学生の奨学支援に必要な額は、本年度だけで約１億円にものぼります。校友の皆様の支援を心よりお願い申し上げます。ご寄付は、銀行振込、インターネット等で受け付けております。詳細は下記 URL をご覧ください。

※ご寄付いただく際は『被災した大学生・大学院生の奨学金』と指定してください。

URL http://www.rikkyo.ac.jp/fundraising/news/2011/04/8745

【問合わせ先】立教学院募金室　TEL　03-3985-2207

義援金のご報告

立教学院、立教大学校友会では皆様に義援金のご協力のお願いをしてまいりました。８月31日をもって受付を終了させていただきましたので、ご報告致します。詳細はホームページをご覧ください。

立教学院東日本大震災義援金
16,568,169円
※日本赤十字社へお届けし、被災者支援及び復興支援に役立てていただきます。

立教大学校友会東日本大震災義援金
280,400円
※ご指定いただいた各立教会へお届けいたします。

たくさんのご協力、誠にありがとうございました。

「つないで陸高・・・」を合言葉に！

8月7日を皮切りに9月15日まで、4泊5日を5クール、延べ75人の学生が、6月に吉岡総長が訪問して息の長い支援を表明した陸前高田市でボランティア活動を行いました。長年学生部主催の「林業体験」プログラムでお世話になっている「炭の家」に宿泊し、陸前高田市災害ボランティアセンターを通じ、共にあることを心に置いて活動した学生は、今回の体験を語り継ぐことで人々の思いを風化させないでつなげていきたい、と語っていました。

ボランティアスタッフの声

学生ボランティアとして現地に向かう時、「一体私に何ができるのだろうか。私の活動に意味はあるのだろうか」と、不安でいっぱいでした。

陸前高田に到着して最初に行った作業は、土に埋まった瓦礫をスコップで掘り出すというものでした。掘っていると、途中で畳の一部が顔を出しました。しかし私たちの作業時間は30分程度で、その畳を掘り出すことはできませんでした。

しかし、その畳はその後の班員の手で掘り出されたと聞きました。それを聞いた時、私がやっているボランティアはきっとこうしたつながりの中にあるのだろうと思いました。

4泊5日という短い期間、やり残したこともたくさんありました。けれど、次のクールの人が引き継いでいくことで、できたこともたくさんあったと思います。今回の立教大学の学生ボランティアではできなかったことも多くあったことでしょう。それでも誰かが引き継いでいけば、できることは少なくないはずです。

継続的な活動の積み重ねが復興につながっていくこと、そのための一部を私たちが担っているということ。今回のボランティアを通じて、私の活動の意味を見出すことができました。

（経済学部経済学科一年　森川宇久）

私は今回立教の学生ボランティアとして陸前高田を訪ね、草刈りや側溝の泥かきといった作業を行いました。陸前高田の被災地域に行ったのは六月以来だったのですが、以前に比べて片付けられているという印象を受けると同時に、まだまだ人手が必要であると感じました。

私達を含め、陸前高田には沢山のボランティアの人々が集まっており、出身地や年齢、参加した動機などは様々でしたが、皆が一つの目標に向かって活動できたという経験はとても貴重でした。今回の活動を通して、地元の方々やその他様々な人と交流することが出来たことも非常に意味のあることであったと思います。依頼者の方や、生出の方々、災害ＶＣの方々など沢山の方々にお世話になりました。私達の活動も、多くの人の協力があって初めて成り立っており、その環境に感謝して活動しなければならないと強く感じました。

震災から半年近く経過し、日々震災の生々しさが薄れつつありますが、これからも長く継続的な支援に関わっていきたいと改めて思っています。

（文学部史学科三年　中村千春）

私は、ボランティア活動の第2クールの引率を担当しました。学生たちは、ボランティア活動について、「達成感を感じてよいのか」「瓦礫の大小に違いはあるのか」といったことを日々考え意見交換をしながら活動を進めて行きました。活動の最終日には、力のあるものは大きな瓦礫を片付け、そうでない者は小さい瓦礫を丁寧に片付ける。また、ある者は他の団体と協力しながら活動する。といったようにそれまで自分たちで自問自答してきたボランティア活動のあるべき姿を一人一人の持ち味ごとに自然に体現していました。素晴らしい光景でした。今回の活動はもちろん陸前高田の復興に微力ながら尽力することが目的です。しかし結果として、私も含め参加者がとても多くのことを学びました。その最たるものが「つながり」です。具体的な作業は瓦礫を相手にしましたが、その本質は、高田の人々やボランティアの仲間と「つながる」作業でした。ボランティアから戻った私たちには、最も困難な作業である「つながり続けること」が待っています。自分のまわりにいる人々を良い意味で巻き込みながら、陸前高田とつながり続けて行きたいと思います。

（学生部学生厚生課　船橋龍）

総長も活躍（第２クール）

草刈り（第１クール）

“立教学院 こころのケアセンター”のご案内

私たちは、家庭や学校、職場などで日々さまざまなストレスにさらされながら生活しています。立教学院では本学院の生徒・学生はもとより、その父母や家族、教職員、卒業生、近隣にお住まいの方々など、地域に開かれた心理相談機関として「こころのケアセンター」を開設しています。幼児・児童から大人までを対象に子育てや発達、学業、家族に関する諸問題、それに心に悩みをもつ方のご相談をお受けし、共に考え、解決までの援助をめざしています。個人面接をはじめとして、子どもの遊戯療法、親子並行面接、家族療法、集団療法など多彩なプログラムを準備し、相談には臨床経験豊かな大学教員や臨床心理士があたりますので、どうぞお気軽にご利用ください。また、必要に応じて心理検査を実施したり適切な医療機関や施設もご紹介します。

相談は予約制になっていますので、左記の時間に電話でお申し込みください。

▽受付時間：火曜日～土曜日（10時～17時）
TEL 03-3985-4574
相談時間：1回50分（3500円～）

場所は池袋キャンパスから少し離れた閑静な住宅街の一角（17号館）にあります。案内図など詳細はホームページをご覧ください。

URL www.rikkyo.ne.jp/grp/kokoro/